

## 小学生に伝える活動を通して、交通安全の意識を高める学習の事例

交通

中学校 第2学年 特別活動（学級活動）

## 授業づくりのポイント

- 交通事故の危険予測と回避に関する理解や交通安全の啓発を促すための取組などを教科横断的に学べるようにする。
- 小中連携の視点から、学んだことを近隣小学生に伝える活動を通して、中学生として地域の交通安全に貢献する意識を高める。

## 単元について

- 1 題材名　自転車の「ながら運転」の危険性を学区の小学生に伝えよう

## 2 目標

II-1、2

- ① 道路における様々な危険や交通法規について理解し、安全な歩行ができるようにする。
- ② 自転車の安全な利用・点検や整備について理解を深め、交通法規を守って安全な乗車ができるようにする。

## 3 教材化の視点

自転車走行が慣れてくる時期には、「ながら運転」も増え、不注意による衝突事故が多くなる傾向がある。そこで、教科等横断的に交通事故の危険性を学ぶとともに、学区域の小学生（高学年）に「ながら運転」の危険性を伝え、小学生も日常生活で交通安全を意識できるような学びを展開する。なお、対象の小学生は、縦割り班活動等で班長として下級生をまとめる立場となる高学年とし、自校での交通安全啓発に生かすようにさせる。

## 指導計画（4時間扱い）

時間	○主な学習活動	◎安全教育の視点に立った留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○警察署員から市内で起きている交通事故の特徴を聞く。特に、「ながら運転」による事故状況について聞き、問題点をまとめる。</li> <li>○事故等の危険から身を守り、安心・安全に過ごすためにできることを考える。（小中連携の視点でできることを考える）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎具体的な事例を用いたり、実体験を振り返らせたりし、「ながら運転」をしてしまう原因に対する改善策を考えさせる。</li> <li>◎自分たちが「ながら運転」をしないだけでなく、歩行者等も危険を回避するためにできることは何かを考えさせる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生（高学年）に「ながら運転」の危険性を分かりやすく説明するための話し合いを行い、説明の方法などを決める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎小学生に考えさせる際に、「日頃、交通安全で気を付けていること」を確認し、「気を付けているのにヒヤッとしたこと」を想起させることで、「ながら運転」の危険性について実感させることができることを押さえる。</li> </ul>
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生（高学年）に「ながら運転」の危険性などを分かりやすく説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎小学校（高学年）は、登校班や縦割り班で班長や副班長を担うことが多い。自分が気を付けるだけでなく、下級生の安全を守るために意識することについて考えられるように促す。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学生の書いた感想文やアンケートから、これまでの取組を振り返るとともに、今後も心掛けていくことを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎自分の安全だけでなく、他者の安全にも気を配ること、できることを意識させる。</li> </ul>
事後指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各自が考えた心掛けることについて定期的に振り返る。</li> </ul>	

## 指導事例（第3時／4時間）

### 1 ねらい

「ながら運転」の危険性を小学生（高学年）に分かりやすく伝えるとともに、小学生（高学年）が実感をもって考え、日頃の生活の中で意識すること、できることを考えられるようとする。

### 2 ポイント

各グループに分かれ、具体的な事例を提示しながら交通安全や「ながら運転」の危険性について小学生に伝え、各自の経験を振り返りながら危険性について実感できるようにする。

### 3 指導の実際

	○主な学習活動	◎支援・留意点	■評価（評価方法）
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてについて確認する。 「ながら運転」の危険性を小学生に分かりやすく説明し、小学生が日頃の生活の中で意識することを「『ながら運転』撲滅宣言」として具体的に考えられるようにしよう。</li> </ul>		
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各班、役割分担、説明手順を確認する。（説明者、説明補助者、機器操作担当者、ポスター担当者など）</li> <li>○各班、6会場に分かれ、小学生に「ながら運転」の危険性などについての説明を行う。 (例) ① 時速15kmの自転車は、2秒間で何m進むか。 ② 「ながら運転」は法律で禁じられているか。</li> <li>○説明後には、小学生からの質問に答える。</li> <li>○「ながら運転」の危険性を踏まえ、自身の交通マナーを振り返る。 ・小学生、中学生それぞれの立場で考える。</li> <li>○「ながら運転」を無くすために、心掛けることを伝えるキャッチフレーズを考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎6班が6会場に分かれて説明を行うため、移動後すぐに対応できるよう、最終確認をする。</li> <li>◎説明会場の設営は事前に済ませておく。</li> <li>◎小学生が既習内容を生かして考えることができるよう、小学校算数「速さ」、小学校体育「交通事故の防止」の内容と関連させた説明を行わせる。</li> <li>◎保健体育で体験的に学んだ内容をスライドやポスター等を活用し、分かりやすく提示させる。</li> <li>◎自転車に限らず「ながら運転」や「ながら行動」の事故の実態にも触れるようにさせる。</li> <li>◎小学生は、グループごとで話し合い、答えを考えるようにさせる。</li> <li>◎過去の経験や見聞きした事柄について、ヒヤリ・ハットの事例を想起させ、どのようなことが「危ない」と思ったのかを考えさせる。</li> <li>◎「危ない」と思ったことを防ぐために意識すること、守ることなどをキャッチフレーズとして考えさせる。</li> </ul>	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「ながら運転」を無くすためのキャッチフレーズを発表する。</li> <li>○本時を振り返る。 ・中学生から教わったことについて考えたこと ・小学生に伝えることで考えが深まったこと ・今後心掛けること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎2、3人程度発表させ、キャッチフレーズを考えた理由も述べさせる。</li> <li>◎小学生は、高学年として下級生の交通安全に配慮する立場であることを押さえ、小学生も中学生も登下校の時間が重なることからも、互いに交通安全の意識を高めることを確認する。</li> <li>■「ながら運転」の危険性を小学生に分かりやすく説明するとともに、小学生が日頃の生活の中で意識することを具体的に考えることができている。（行動観察・ワークシート）</li> </ul>	

### 生徒の感想

- ・小学生に「ながら運転」の危険性を伝えるために、事例を調べたり、問題を考えたりすることで危険性について理解が深まった。

### 生徒の変容

- ・中学生として地域の交通安全を守る立場であるという意識が高まっていた。